

「3・11メモリアルアクション2017 in ふくい 集会」アピール

「3・11福島原発災害」が発生してからちょうど6年目の今日、福井市フェニックスプラザにおいて、「第6回3・11メモリアルアクション～原発のない新しい福井へ ～ さよなら原発福井県集会 2017 in ふくい」を開催し、たくさんの方を学習することができました。

福島第一原発(以下、フクイチ)で、メルトダウン・メルトスルーが起きたことは誰でも知っていますが、その具体的な実態はロボットによっても観測できませんでした。原子炉の解体と廃炉への技術は全く手がつけられない状態です。フクイチでは、依然として大量の放射性物質が漏れ出し、環境をひどく汚染し、あらゆる生命体に損傷を与えています。つまり、フクイチは、相変わらずフクシマ事故の収束の見込みは全く立っていないのです。安倍晋三政権は、東京オリンピックに向けて福島の惨禍(惨めな災い)を風化させようとしています。私たちは福島の惨禍を冷静に直視し、福島の人たちを支援しなければなりません。

現在、福井県内の原発は全て停止しています。県内にある15基のうち、新型転換炉「ふげん」、高速増殖原型炉「もんじゅ」、敦賀1号機、美浜1号機と2号機は、廃炉とすることが決定しています。大飯原発と高浜原発は、裁判所から運転停止の仮処分命令が出されたため、停止しています。これらは全て、若狭湾沿岸を第二のフクシマにしてはならないとして闘ってきた私たち住民の広域連帯運動の勝利の結果であり、私たちの誇りと言えるものです。

しかし、私たちは全く油断することができません。安倍政権とその配下にある原子カムラは、ひたすら権力を振りかざし、原発の再稼働への道を暴走しています。彼らは、原発メーカーの東芝が大赤字になったことも、日立も三菱も原発事業で赤字を出していることを知っているはずですが、核燃料サイクルが失敗し、使用済み燃料の処理処分の場所も技術もないことを知っていながら、ひたすら原発再稼働へと暴走するのは核兵器をつくり、保有し、使いたいからだとしか考えられません。

安倍政権は、トランプ・アメリカ大統領の登場により、日本国憲法の遵守を無視し、日米軍事同盟の強化を正当化しています。彼らは、姑息にもマスコミを誘導して、国民を洗脳しようとしています。しかし、私たちは、「8・15敗戦」へと暴走した過去の軍事政権による誤った「国策」を忘れていませ

ん。今や、原発をなくす運動は、戦争をしない運動と一体化してきました。私たちは、安倍晋三政権とそれに媚びる西川一誠福井県知事を退陣させる運動を一層強化しなければなりません。

すでに私たちは、原発がなくても電気は足りることや、原発コストは決して安くないことを知っています。世界の動向は、最近ベトナムと台湾が原発からの撤退を決め、約20カ国が「脱原発への道」を進んでいます。特に、ドイツをはじめヨーロッパ諸国では、省エネと自然エネルギー利用へとエネルギー政策の転換を進めています。これが世界の潮流なのです。福井県内でも、地産地消・自主自律の動きが具体化し広まっています。これには希望があります。

私たちは、原発のない平和な社会をつくるために、安倍晋三政権を打倒し西川一誠福井県知事を退陣させるために、たたかう覚悟を固めます。

2017年3月11日

「3・11メモリアルアクション～原発のない新しい福井へ～
さよなら原発福井県集会 2017 in ふくい」参加者一同